

住民主体のまちづくり

No.27 2016. 2

編集発行：車尾まちづくり推進会議 事務局

■ 子育てカーニバル in くずも

去る1月14日(木)午前10時15分から子育て支援の取り組みとして、車尾公民館で今年度2回目の「子育てカーニバル in くずも」が開催されました。これは乳幼児親子のお楽しみイベントで地区青少年育成会の主催で地区民生児童委員協議会、おはなしグループ、車尾保育園など関係諸団体30数名の協賛で企画運営されました。

参加者は親子20組で以下の内容に楽しんだり喜んだりであったという間の1時間15分でした。

- ・ 保育園児の歌、引率先生のペープサート
- ・ 腹話術
- ・ バルンアート

前回より参加者が多く、よかったです。

■ わがまち支え愛連絡会

去る1月29日(金)午後7時から車尾公民館で、開かれました。これは地区社会福祉協議会が中心で、災害が発生したときに避難などの支援を必要とする人が、自分の地域に、どのように住んでいるのか、また、どのような支援を必要としているのかをあらかじめ把握していれば、災害が発生したときの助け合い活動に役立ちます。

災害時の支援に必要な情報を表記した住宅地図(マップ)を自治会又は自治会の班ごとに作成しておくことが求められています(わがまち支え愛マップ推進事業)。ここでいう情報とは、支援者の家のほか、避難所、公共・福祉・医療施設、さらには民生委員など地域の人材や避難ルートなどのことです。また災害時とは、地震、大雨、竜巻など天災のほか、大規模火災などを含み、災害が発生した場合だけでなく災害の発生が予想される場合も含まれます。この連絡会は、各自治会で半年にわたり「マップづくり」に取り組んできた様子を発表し合い、マップの内容を充実させるもので、観音寺と中島が全体発表され、方向性が見えてきました。

■ 暮らしやすさ指数の全国順位で米子市1位

昨年、国(経済産業省)は、地域の家計収支や地域の暮らしやすさを貨幣価値で示す「見える化」システムを作成しました。このシステムでは、居住地を選ぶ際の好み(志向)・年代・家族構成の条件を設定すると、各地域の暮らしやすさの貨幣価値が計算され、指標化・ランキング化されますが、46の条件設定のうち半数の23の条件設定で、本市が全国1700余りの市町村で第1位になりました。とりわけ利便性を志向する条件では、約70%が第1位という結果になっています。

年齢層	20代	30代	40代	50代	60代	70代
単身世帯	1	3	1	2	1	1
夫婦のみ世帯	1	1	1	1	1	1
夫婦と乳幼児	5 5	1	1	1 7	—	—
夫婦と小中高生	—	1	1	2	—	—
夫婦と大学生以上	—	—	3	1	2	1

年齢層	20代	30代	40代	50代	60代	70代
単身世帯	180	6	4	3	1	1
夫婦のみ世帯	5 2	1	1	1	1	8
夫婦と乳幼児	1 5	1	1 7	1 7	—	—
夫婦と小中高生	—	2	3	4	—	—
夫婦と大学生以上	—	—	4 4	6	2 3	1 2

暮らしやすさの貨幣価値は、生活利便性、働きやすさ、教育・子育て、医療・福祉、災害・自然環境、ライフスタイルのカテゴリ別に設定された計22の指標を用いて計算されています。

山陰という田舎にあっても、暮らしやすさ日本一の米子市、特に私たちのまち車尾地区は、交通インフラ、商業施設、病院、学校、保育園、運動公園、水道局など都市機能と豊かな自然環境が、まるでパノラマのようにバランスよく詰まっています。この現状を「まちづくり」に活かさなくてはなりません。